

# 東日本大震災後の復興 及び将来へ向けての課題

—いわき地域における医療の復興・再生へ向けて—

2013年3月3日（日） 9:30～13:00

いわき市文化センター

（中央公民館）

---

# プログラム

9:30 開会

9:35 シンポジウム

総合司会 田勢長一郎（福島県立医科大学医学部救急医療学講座 教授）  
有賀 徹（昭和大学病院 病院長/日本救急医学会監事）

1 いわき市における医療の崩壊から再生に向けて

① 福島県医師会の立場から

木田光一（福島県医師会 副会長/いわき市医師会 前会長）

② いわき市病院協議会の立場から

松村耕三（いわき市病院協議会 会長/松村総合病院 院長）

③ 磐城共立病院救命救急センターの現状と課題

小山 敦（いわき市立総合磐城共立病院 救命救急センター長）

2 DMAT 以外の災害支援チーム派遣および今後の在り方

大槻稔治（東京慈恵会医科大学救急医学講座 准教授）

3 医療復興における県の役割および課題

山岸広輔（福島県保健福祉部地域医療課）

4 震災後の福島県の救急医療体制および原発事故対応

田勢長一郎（福島県立医科大学医学部救急医療学講座 教授）

5 福島県の被ばく医療体制の構築と今後の課題

長谷川有史（福島県立医科大学医学部救急医療学講座 助教）

6 急性期医療活動から復興期医療保健福祉活動へ

小早川義貴（国立病院機構災害医療センター臨床研究部  
/厚生労働省 DMAT 事務局）

7 救急医学会の取り組み

① 原子力事故現地対策本部（OFC）における活動

坂本哲也（帝京大学救急医学講座 教授

/日本救急医学会福島原発事故緊急ワーキンググループ担当理事）

② 日本救急医学会の支援活動医療活動および今後の展望

横田裕行（日本医科大学救急医学講 教授 /日本救急医学会福島原発事故

災害に対する後方搬送等についてのワーキンググループ担当理事）

13:00 閉会

## 1 いわき市における医療の崩壊から再生に向けて

### ① 福島県医師会の立場から

木田光一（福島県医師会 副会長/元いわき市医師会 会長）

東日本大震災によるいわき市の被害は大きく、加えて福島第一原発事故の原子力災害により双葉郡から多くの避難者が殺到したことから、避難所での医療の確保が喫緊の課題となった。幸い、DMAT、JMATによる避難所の巡回診療が開始され、震災後2カ月には96.2%の医療機関が診療を再開できたため、医療崩壊の危機は回避された。しかし、元々医療従事者が少なかったところに、震災後は双葉郡からの避難者24,000人と原発関連の作業員で人口が約3万人増えており、医療ニーズの増大から救急患者の円滑な受け入れが難しくなっている。いわき市医師会は、市と共に地域連携ネットワークの整備等の対策を進めており、現状を報告したい。

### ② いわき市病院協議会の立場から

松村耕三（いわき市病院協議会 会長/松村総合病院 院長）

### ③ 磐城共立病院救命救急センターの現状と課題

小山 敦（いわき市立総合磐城共立病院 救命救急センター長）

## 2 DMAT 以外の災害支援チーム派遣及び今後の在り方

東京慈恵会医科大学救急医学講座

大槻穰治、奥野憲司、大谷 圭、平沼浩一、大瀧佑平、武田 聡、小川武希

当病院は訓練された災害医療チームを持っていない。今回の震災では被害が広範囲であり亜急性期にも医療ニーズが多いと考えチームを派遣した。機動力、連絡手段等に問題を認めたが、福島県立医大のご紹介により医療調整本部の指揮下に入り活動を開始した。350名が避難していた研修センターを拠点とし38カ所の避難所を延べ84回巡回した。重症・緊急症例は少なく、多くは感冒や避難所を移り常用薬が無くなった方であった。連日保健所での会議を行い、保健所、薬剤師会等との連携がはかられ3月22日からの40日間で延べ1134名を診療した。福島県は様々な問題から撤退時期が非常に難しかったが災害医療の原則を遵守し継続することで我々のような施設でも災害に貢献することは可能であると思われた。

### 3 医療復興における県の役割および課題

山岸広輔（福島県保健福祉部地域医療課）

福島県では、東日本大震災・原子力災害を踏まえて、平成 25 年度から平成 29 年度の 5 年間を計画期間とする新しい医療計画「第六次福島県医療計画」の策定を進めています。

【第六次福島県医療計画の主な取組】

#### 1 救急医療

原子力災害により浜通りが南北に分断されている状況を踏まえた医療連携体制の構築を進めます。

#### 2 災害時医療

東日本大震災を踏まえ、災害医療コーディネーター制度の創設、災害医療コーディネーターを核とする災害時医療体制の構築を進めます。

#### 3 浜通りの医療復興

「福島県浜通り地方医療復興計画」により、医療機関相互の役割分担と連携を促進します。

### 4 震災後の福島県の救急医療体制および原発事故対応

田勢長一郎（福島県立医科大学医学部救急医療学講座 教授）

東日本大震災で福島県は、地震・津波に加え原発の事故や風評被害により、浜通り、県中・県南地方の医療体制は大きな打撃を受けた。これらの地域では医療従事者の減少に加え受信者数の増加により、医療スタッフの疲弊状態が続いていたが、各関係機関の支援により、ようやく明るい兆しが見え始めている。一方、大規模災害における医療に対する県の取り組みは、災害対策マニュアルの不備もあり、十分な対応ができたとは言い難い。何が不備であったかを検証し、県災害対策本部を核とする一元化体制を構築した。災对本部の医療調整本部に、災害や救急の専門医および保健所・県医師会・病院協会が災害コーディネーターとして加わり、地域災对本部も包括した災害医療活動を行う体制である。原発事故対応では、日本救急医学会の支援により原発内での事故は激減し、作業員に対する安全・安心を提供している。4 月からは救急救命士の有資格者が医療班に加わり、6 月からは第一原発正門入退域管理棟に救急医療室が設置され、5, 6ER と JV 診療所はここに統合される。

### 5 福島県の被ばく医療体制の構築と今後の課題

長谷川有史（福島県立医科大学医学部救急医療学講座 助教）

被ばく汚染傷病者発生リスクが世界一高いであろう福島第一原発事故復旧現場では、一日、延三千人が収束作業にあたっている。核燃料溶融 3 原子炉内作業は未着手で、真の被ばく汚染リスクを伴う工程はまだ始まっていない。汚染傷病者は 2011 年 3 月以降未発生だが、重症傷病者は一定頻度発生している。被ばく医療拠点間では毎日 web 回線を利用した会議で情報共有を図り、終日医療支援体制を維持する一方、学生教育、放射線ハイリスク者検診、住民対話を行う。現在の緊急被ばく医療体制は、全国から支援を受けることで応急的に維持されており、抜本的対策はこれからである。困難な道程だが、一外来脅威として放射性物質を捉え、災害医療、既存救急医療と整合性ある、日常恒久的被ばく医療のあり方を提案していきたい。

## 6 急性期医療活動から復興期医療保健福祉活動へ

小早川義貴（国立病院機構災害医療センター臨床研究部/厚生労働省 DMAT 事務局）

福島県では未だ15万人以上が避難生活を余儀なくされている。復興庁が発表した震災関連死2303人うち、1121人は福島県での発生である。主に高齢者が中心で、人口あたりの発生割合は双葉郡8町村と飯舘村で高い。避難している住民も避難による生活環境の変化から、生活機能低下、肥満、高血圧症の増加が指摘されている。これらを放置すれば生活不活発病や生活習慣病から、震災関連死発生の第2の山を引き起こす可能性がある。本発表では急性期から現在に至るまで、我々の関与した活動を中心に福島の災害医療を概観するとともに、住民の暮らし、医療・保健・福祉の連携を含めた今後の包括的な対策について検討する。

## 7 救急医学会の取り組み

### ① 原子力事故現地対策本部（OFC）における活動

坂本哲也（帝京大学救急医学講座 教授  
/日本救急医学会福島原発事故緊急ワーキンググループ担当理事）

### ② 日本救急医学会の医療支援活動と今後の展望

横田裕行（日本医科大学）、有賀徹（昭和大学）、石原哲（白鬚橋病院／東京都医師会）、猪口正孝（平成立石病院／全日本病院協会）、内山修（東京防災救急協会）、近藤久禎（災害医療センター）、坂本哲也（帝京大学）、島田二郎（福島県立医科大学）、田邊晴山（救急振興財団）、中野公介（川口市立医療センター）、野口英一（東京防災救急協会）、福田秀人（救急医療総合研究機構）、堀進悟（慶應義塾大学）、増野智彦（日本医科大学）、山中秀樹（東京防災救急協会）、横山文博（日本生命保険相互会社）

福島第一原子力発電所における放射性物質の外部放出により、避難指定地域外の医療機関でもその機能が極端に低下した。そのため、患者後方搬送に関して様々な支援がなされたが、日本救急医学会でも学会として組織的に活動すべく福島原発事故災害に対する後方搬送等についてのWG（以下、WG）を立ち上げ、患者受入医療機関と搬送車両、および搬送人員の確保を行った。さらにWGは南相馬市立病院から日本救急医学会に対しての救急医派遣要請に対して支援調整を行い、昨年1月から5月まで学会員の医師派遣を行った。今後のWGとしての活動は中長期的な視野に立ち当地域に対してどのような救急医療体制が可能であるかを議論していくべきと考えている。

## 《 講師紹介 》

- ・木田 光一（きだ こういち）  
【所属】 福島県医師会 副会長/いわき市医師会 前会長  
出身校：昭和53年 秋田大学医学部医学科卒業
- ・松村 耕三（まつむら こうぞう）  
【所属】 いわき市病院協会会長/松村総合病院 病院長
- ・小山 敦（こやま あつし）  
【所属】 いわき共立病院救命救急センター センター長
- ・大槻 穰治（おおつき じょうじ）  
【所属】 東京慈恵会医科大学救急医学科 准教授/ 同附属病院救急部診療副部長  
出身校： 昭和60年 日本大学医学部卒業
- ・山岸 広輔（やまぎし こうすけ）  
【所属】 福島県保健福祉部地域医療課 副主査  
出身校： 平成11年 東京大学文学部卒業
- ・田勢 長一郎（たせ ちょういちろう）  
【所属】 福島県立医科大学医学部救急医療学講座教授/同附属病院救急科部長  
出身校： 昭和51年 福島県立医科大学医学部医学科卒業
- ・長谷川 有史（はせがわ ありふみ）  
【所属】 福島県立医科大学救急医療学講座 助教  
/同附属病院救急科・救命救急センター、被ばく医療班兼務  
出身校： 平成 5年 福島県立医科大学卒業
- ・小早川 義貴（こはやがわ よしたか）  
【所属】 国立病院機構 災害医療センター 臨床研究部/厚生労働省 DMAT 事務局
- ・坂本 哲也（さかもと てつや）  
【所属】 帝京大学医学部救急医学講座主任教授/同附属病院救命救急センター長  
出身校： 昭和58年 東京大学医学部卒業
- ・横田 裕行（よこた ひろゆき）  
【所属】 日本医科大学大学院救急医学教授/日本医科大学救急医学教室主任教授  
/日本医科大学付属病院副院長/同付属病院高度救命救急センター長  
出身校： 昭和55年 日本医科大学卒業